

納奉宮神峯白

場所 白 峯 神 宮 神 樂 殿

日時 ~~平成31~~年5月5日(日)午前10時
令和元

主催 白 峯 神 宮
宮 司 栗 田 口 幹 男

共催 日本古武道振興会
会 長 小 笠 原 清 忠

白峯神宮奉納演武

参加流派 21 参加人数 91 名

- 1 小笠原流弓馬術礼法 (小笠原 清忠)
- 2 鞍馬流劍術 (柴田 章雄)
- 3 荒木流軍用小具足 (千葉 明)
- 4 無雙神傳英信流拔刀兵法 (森本 邦生)
- 5 小野派一刀流劍術 (鈴木 ゆき子)
- 6 細川家伝統兵法二天一流 (宮田 和宏)
- 7 天然理心流 (大塚 篤)
- 8 直心影流薙刀術 (園部 正美)
- 9 神道無念流劍術 (小川 武)
- 10 澁川一流柔術 (森本 邦生)
- 11 神夢想林崎流居合術 (鈴木 ゆき子)
- 12 戸山流拔刀道 (中村 朋子)
- 13 天道流薙刀術 (木村 恭子)
- 14 天真正伝香取神道流兵法 (飯篠 快貞)
- 15 夢想神伝居合重信流詰合 (津村 恵治)
- 16 立身流 (加藤 紘)
- 17 直元流大長刀術 (鈴木 ゆき子)
- 18 夢想神伝流居合術 (高橋 次秀)
- 19 無双直伝英信流居合兵法 (石本 一平)
- 20 柳生心眼流體術 (梶塚 靖司)
- 21 琉球古武術 (井上 貴勝)

〈流儀解説〉

井上 貴勝 吉田 実

平成31年 (2019) 5月5日

令和元

五、小野派一刀流劍術（伊藤一刀齋景久）

鈴木 ゆき子（東京都）

六、細川家伝統兵法二天一流（新免武蔵玄信）

宮田 和宏（福岡県）

七、天然理心流（近藤内蔵之助藤原長裕）

大塚 篤（茨城県）

鈴木 正典
後藤 喜一
大竹 朗
酒井 章
鈴木 健
鈴木 香
鈴木 一
宮内

宮田 和宏
宮長 昭
林 富
林 又
林 児

大塚 英美
藤原 徳
栗原 昌
大島 治
小川 賢
助川 眞
影澤 安
宇都宮 希
陽子

八、直心影流薙刀術（山田平左衛門藤原光徳）

園部正美（奈良県）

井上三三子
西岡久美子
南楚容子
梶谷慶子
大谷康裕
谷口克美

九、神道無念流劍術（福井兵右衛門嘉平）

小川武（東京都）

小萩崎川
齊藤文昭
土屋藤子
山田政則

十、澁川一流柔術（首藤藏之進満時）

森本邦生（広島県）

森本邦生
林本大介

十一、神夢想林崎流居合術（北條甚助林崎平重信）

鈴木ゆき子（東京都）

鈴木ゆき子
後藤正典
大竹喜一
宮内

十二、戸山流拔刀道（中村泰三郎）

十三、天道流薙刀術（齋藤判官伝鬼房）

十四、天真正伝香取神道流兵法（飯篠長威齊家直）

十五、夢想神伝居合重信流詰合（林崎甚助重信）

中村朋子
（神奈川県）
阿高部英弘光夫

木村恭子
（東京都）
和田置上橋富島部
久捷粥順美美津美
代子江子子子

飯篠快貞
（千葉県）
飯京増重快貞
野増重快貞
毛野増重快貞
成荒野増重快貞

津村惠治
（埼玉県）
津安藤和勝
村生藤和勝
津安藤和勝

十六、立身流（立身三京）

加藤 裕 紘（千葉県）
江尻 介

十七、直元流大長刀術（天真正笠井藤左衛門尉）

鈴木 ゆき子（東京都）
鈴木 一
宮内

十八、夢想神伝流居合術（林崎甚助重信）

高橋 次 秀（東京都）
高橋 次 秀
石川 叡 正
毛利 公 淳
高橋 利 則
清高 水 航

十九、無双直伝英信流居合兵法（林崎甚助重信）

石本 一 平（兵庫県）
石本 一 平

二十、柳生心眼流體術（荒木又右衛門）

梶塚 靖 司（栃木県）
高橋 慶 太
前田 樹 里
鈴木 由

井 上 貴 勝
井 矢 矢 藤 藤 向 塩 山 矢 道 恵 吉 井
上 野 野 田 田 井 田 口 野 正 下 田 上
俊 愛 義 千 宣 久 量 八 泰 淨 貴
二 結 香 則 種 尊 男 也 郎 弘 尊 実 勝
勝 (東京都)

古武道振興会沿革

日本古武道振興会は、昭和十年四月一日、松本学貴族院議員、小山松吉司法大臣、二荒芳徳伯爵等、当時の有識者と古武道各流派代表者が集まり結成されました。日本の誇るべき伝統文化財である古武道の衰微を憂い、その保存と振興を図ることを目的としました。昭和十五年四月四日には、財団法人の許可を受け多彩な活動を展開し大きな成果をあげてまいりましたが、終戦に伴う米軍占領下という事情もあり、財団法人を自主解散し、現在にいたる任意団体になりました。

古武道振興の主旨は、日本の誇るべき文化財である日本武術の神髓を体得錬磨し、青少年に普及することにあります。「武は戈を止める」と申されております如く日常の武術修練によって得た心技体の実力をあくまで表面に示さず謙虚に余裕をもつて自己及周囲を洞察する心と体を養うことにあります。その武の心を心として各流派宗家、師範を中心に毎年十一月三日の明治神宮の演武大会、伊勢神宮(式年遷宮年)、靖国神社、下鴨神社、白峯神宮、熱田神宮、浅草神社、等戦前に引続き奉納演武が恒例となっております。

日本古武道振興会としては、活動の一環として古武道大会開催の他、流儀解説の普及にも努めてまいりました。昭和三十七年発行の機関誌「真鋭」第二号で各流儀の流祖伝系、演武者の経歴を掲載したのをはじめ、昭和四十五年には「真鋭」別冊で同じく流儀解説を紹介、その後本格的な流儀解説書を創立四十六周年(昭和五十六年)に発行し、創立五十周年(昭和六十年)からは五年ごとに創立記念古武道大会を開催すると同時に、流儀解説書を改訂刊行してまいりました。

平成二十七年七月十九日(日)には、創立八十周年記念大会を中野サンプラザホールにて開催致しました。古武道の益々の発展と隆盛を期して参ります。



日本古武道振興会

事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町11-12 柴田章雄

ホームページ <http://kobushin.jp/>
メール kobudoushinkoukai@yahoo.co.jp